

令和6年3月18日

鹿沼市議会

議長 谷中恵子様

教育福祉常任委員会

委員長 佐藤 誠

教育福祉常任委員会行政視察調査報告書

教育福祉常任委員会行政視察について、下記のとおり報告します。

記

1 視察日程

令和6年1月15日（月）～1月17日（水）

2 参加者

教育福祉常任委員会

委員長	佐藤	誠
副委員長	増淵	靖弘
委員	阿部	秀実
委員	大貫	桂一
委員	船生	雅秀
委員	早川	勝弘
委員	仲田	知史
委員	鹿妻	武洋

3 視察先と調査事項

1. 相生市（兵庫県）

子育て応援施策「11の鍵」について

2. 大阪府

大阪府立中之島図書館

3. 豊後高田市（大分県）

「学びの21世紀塾」事業について

4. 大分市（大分県）

大分市民図書館

5. 宇佐市（大分県）

介護認定率低下の取り組みについて

4 各視察内容の詳細

相生市（兵庫）

視察日時：1月15日（月）

視察場所：相生市役所

視察内容：子育て応援施策「11の鍵」について

相生市の概要：相生市は兵庫県の南西部、瀬戸内海沿いに位置し、人口約2万8千人、戦後の高度経済成長期に造船業を中心とした企業城下町として発展し。昭和50年には人口4万2千人を数えるまでに至る。

「11の鍵」実施の経緯：小泉内閣による行財政改革、三位一体改革の影響により相生市の財政が危機的状況になる見込みとなり、自治体の持続可能性を図るため平成17年（西暦2005年）に「相生市財政SOS宣言」を行い、徹底した各種行財政改革により年間予算で30億円近い歳出削減を達成。捻出した財源を活用し、最重要課題である将来の人口減少に取り組むため平成23年（西暦2011年）に「相生市子育て応援都市宣言」を行い、子育て世代の定住促進を図るため、「11の鍵」と称した政策パッケージを実施。

「11の鍵」令和5年度予算額：合計268,147千円

各施策予算額：

あつまれ新婚さん新生活応援金（予算額24,000千円）

住宅取得奨励金（予算額12,000千円）

婚活カップル応援金（予算額4,500千円）

出産祝金支援（予算額14,903千円）

こども医療費助成（予算額56,817千円）

子育て応援券交付（予算額2,405千円）

3歳児保育事業（予算額12,787千円）

市立幼稚園預かり保育事業（予算額7,499千円）

給食費無料化（予算額105,836千円）

相生っ子学び塾事業（予算額3,598千円）

ワンピース・イングリッシュ事業（予算額23,802千円）

質疑：各種定住施策開始における反響は、『なぜ、子育て世代だけの支援なのか』『給食費は保護者が負担すべき』『高齢者福祉サービスが後退するのではないか』『短期間で終わってしまうのではない』『財政的に続けていけるのか』等後ろ向きな意見が多かったが、財政の中長期的なシミュレーションを行い、また、市民対話集会を多く開催し丁寧に周知を行う。人口推移をみると平成27年・28年と社会増となるが、平成29年から令和4年にかけて社会減が続いている。平成28年よりアニメーションによる相生市PRに力を入れている。相生市ではこれまでの実績を踏まえ、住環境や交通の利便性などの要素を盛り込んだ第6次総合計画を令和3年よりスタートしている。

まとめ：相生市が進めた財源捻出のための徹底した行財政改革と定住促進施策は本市にも応用可能であると言える。



大阪府

視察日時：1月15日（月）

視察場所：大阪府立中之島図書館

視察内容：大阪府立中之島図書館施設見学

大阪府の概要：省略

報告：大阪府では府立中之島図書館を視察した。同館は今から120年前の明治37年（西暦1904年）に開館した国の重要文化財である。

まとめ：本市でも小中学校の統廃合に限らず市の縮小に併せて多くの施設の廃止が加速していく中、図書館のみならず、各種公共施設をどのように維持活用するかについて一つの事例として参考になった。



豊後高田市

視察日時：1月16日（火）

視察場所：豊後高田市真玉市民センター

視察内容：「学びの21世紀塾」事業について

豊後高田市の概要：同市は大分県北東部、国東半島の西に位置し、移住定住対策が充実していることで全国的な注目を集めている人口約2万2千人のまち。

事業実施の経緯：学校の完全週5日制による学力低下を懸念し、学習環境の確保、子どもへの多様な学びの提供、夢の実現に努力する子どもの育成をねらいとして2002年より「学びの21世紀塾」が実施された。

報告：主な事業として、5歳児、小学生、中学生を対象とした「いきいき寺子屋活動事業」「わくわく体験活動事業」「のびのび放課後活動事業」、市民全般を対象とした市民講座、市内唯一の県立高校である高田高校生を対象とした無料の公設民営塾「うみね」がある。「いきいき寺子屋活動事業」は主に学習支援であり、児童生徒の約7割が登録している。学校の授業科目だけでなく、ICT講座、そろばん講座なども行われている。これらの事業の講師は、主に教員OBや市民、学習塾の講師など、学校の教員以外が務めているため、教員の時間外勤務には大きな影響はない。教育に関心のない家庭など、本来学習支援をする側としてアプローチしたい子どもも参加しやすいよう、教科学習以外にも多様な活動を用意することで、参加のハードルを下げている。高田高校生向けの「うみね」については、事業者に委託をし、学習支援や面接練習などを実施している。高田高校の進学状況は、栃木県内の同等の偏差値の高校と比較して、国公立大学への進学率が高い。豊後高田氏は小中学校の給食費無償化を実施しており、今年が7年目である。財源としては、全体で1億円弱のところ、半分程度をふるさと納税で賄っている。

まとめ：2014年から人口の社会増も続き、人口という量、次世代育成という質の両面で競い合い上手に発展している状況は、今後の本市への市政運営の提言に際して参考にする点が多い視察であった。



大分市

視察日時：1月16日（火）

視察場所：大分市民図書館

視察内容：大分市民図書館施設見学

大分市の概要：大分県の県庁所在地。人口約47万人。戦国時代は大友宗麟の支配下、南蛮貿易で栄える。市域の半分を森林が占めるも、瀬戸内海臨海地域には工業地帯が広がる産業都市。

報告：同館は2013年JR大分駅に隣接する複合施設「J:COMホルトホール大分」内にオープンした図書館で、指定管理者に運営が委託され、年中無休で朝9時から夜9時まで開館している。

まとめ：まちの賑わいの創出、若者へのまちの魅力訴求、駅前の再開発や活性化などと図書館は親和性が高く、単に図書を貸し出すだけにとどまらないコンセプトを目指した新しい図書館が全国各地でできています。人口規模や財政規模に限っては大分市と本市を比べるべくもないが、望まれる図書館の在り方を追求する上で貴重な施設見学であった。



宇佐市

視察日時：1月17日（水）

視察場所：宇佐市役所

視察内容：介護認定率低下の取り組みについて

宇佐市の概要：宇佐市は前述の豊後高田市の西に隣接し、宇佐神宮や焼酎の「いいちこ」で有名な人口約5万人の自治体

報告：宇佐市では、高齢者が元気なうちに「自主的」に取り組む・「継続」する・「参加者自身で運営」する・ファシリテーターに「見守られながら目的を達成」するの4つのコンセプトの下、様々な取り組みを実施している。「介護予防教室」事業では地区公民館を利用し参加者が自ら指導者になり、自立した生活を送るために必要な筋力を維持に取り組んでいる。「高齢者ふれあいサロン」事業でも各地区公民館で高齢者自身が企画運営し実施している。平成22年12箇所だったサロンは、昨年100箇所に増加した。「認知症予防教室」事業は、参加者が自主的にメニューを選択することができ、平成16年開始時の4箇所から18箇所に増えた。これらの取り組みの実績として、宇佐市では高齢者数・高齢化率が共に上昇しているにも関わらず、介護認定率が下がっている。

まとめ：宇佐市の取り組みの中には本市でも類似した形式で取り組みがなされているものもあるが、強い目標意識を持って介護認定率の低下に取り組む、もって高齢者福祉の向上を図るためにも、更なる詳細の比較を進め委員会としても知見を求めていく所存である。

